

子供服メーカーの丸久(徳島県鳴門市、平石雅浩社長)はバングラデシュ工場を増設、ニット生地を生産を始める。投資額は総額5億円で10

子供服の丸久

月に稼働。生産能力は最終的に日産10万枚になる。同工場ではすでに、生地へのプリントと縫製を手掛けており、今回の増設で糸から最終製品までの一貫生産態勢が整う。

バングラで一貫生産

増設する工場は延べ床面積約1万平方メートルの5階建て。糸から生地を作る「編立(あみだて)」工程と、出来上がった生地の色を付ける染色工程

5億円投じニット生地工場

を新たに始める。稼働時の生産能力は日産5万枚でTシャツに換算すると約2万5千枚。順次設備は増強し2012年中に生産能力を日産10万枚(Tシャツ換算約5万枚)にか

引き上げ、日本国内の最大規模の工場に匹敵するという。生産するニット製品は主力のTシャツ、トレーナーなどのカジュアルの定番商品が中心。イトーヨーカ堂やイオンなどにプライベートブランド(PB)自主企画商品として提供する。また、「中国から同じ製品を輸入するより約10%安くなる」という。

「特恵関税」の対象国。来年度から繊維製品を輸入する場合、生地製造、縫製の2工程を経れば特恵関税の対象になり、「中国から同じ製品を輸入するより約10%安くなる」という。(平石社長)

(徳島)